

水稲育苗管理情報

今年度の育苗は日中の高温が頻繁に発生しており、管理の難しい年となっています。特に高温状態が続く場合はもみ枯れ細菌病が出る可能性もあります。苗箱内の温度が30℃以上になると発生が助長されます。もみ枯れ細菌病の苗は使用せず処分するようにしてください。判断が難しいときは営農センター指導員へご相談ください。

また、日中のハウス内温度が高いと焼けの症状に繋がり、夜間の温度が高いと徒長苗に繋がりますので高温が予想される日は早朝からハウスを開放すると共に、降霜の心配がなければ夜間もハウスを開放してください。

☆右の2枚は立ち枯れの苗。円形や坪状に葉が変色し枯れます。

☆下の3枚は出芽してから数日で低温に当たっています。この後右写真のようなムレ苗や立ち枯れの症状が出る場合があります。



○対策は

低温や温度変化の激しい日が続くと、本葉が2~3葉になった時にムレ苗や立ち枯れの症状が出てくる場合があります。特に今年の気温は変化が激しいので、上写真のような症状が出ている場合、低温や高温をうけている場合には、

「タチガレエースM液剤」の500倍液を500ml/箱に灌水します。
ただし、播種時に散布していると使用できませんのでその場合は「カルタス」の1,000倍液を500~1,000ml/箱に灌水します。

また、ムレ苗や立ち枯れ症状が出たときは培土の中にカビが回ってしまう場合が多いです。根の張りが悪くなり、葉は枯れあがって苗は使えなくなってしまうので、薬剤散布や培土中の水分管理で根張りを促進させましょう。

・下記の写真はもみ枯れ細菌病

